

第77回日本医学図書館協会総会研修会

幹事会

日時：2006年5月25日（木）10：00～16：00

場所：ウィルあいち

プログラム：

テーマ「ライフサイエンス情報の新しい流れ」

I. 基調講演

NPO 法人としての日本医学図書館協会の今後
に期待する

NPO 法人日本医学図書館協会 会長
東京慈恵会医科大学教授 清水英佑氏

II. パネルディスカッション

1. 公共図書館から JMLA への提言

— 一般市民の視点から —

愛知県図書館 サービス課 仲井敏夫氏

2. 国立ライフサイエンス情報センター(仮称) 設立構想

NPO 法人日本医学図書館協会 総務担当理事
木村 博氏

3. 学術雑誌をめぐる諸問題

— 重複雑誌交換、分担購入、電子ジャーナル・
コンソーシアムの活動 —

NPO 法人日本医学図書館協会 総務担当理事
東京慈恵医科大学 北川正路氏

4. ヘルスサイエンス情報専門員認定制度

— 専門職制度の確立に向けて —

NPO 法人日本医学図書館協会 専務理事
日本医科大学図書館 殿崎正明氏

III. 総合討論

I. 基調講演：

NPO 法人としての日本医学図書館協会の今後
に期待する

日本医学図書館協会の成り立ちと今後の課題

を語る。官立医科大学附属図書館図書館協議会
から始まった医学図書館のネットワークは、
「相互利用」「雑誌価格の値下げ交渉」「職員研
修」などを目的に結成され、現在も同様な活動
を行い、協議会参加図書館により生かされてい
る。

今までの主要的役割である文献相互貸借の
ネットワークとしてだけでなく、医学図書館の
抱えるさまざまな問題を相互で解決すべく、今
後の目標として「教育活動、研究・診療への支
援の促進」「雑誌価格値上がりへの対応」「分担
購入・分担保存の促進」「認定資格制度の促進」
「国立ライフサイエンス情報センター（仮称）
の促進」を掲げ、より一層の相互扶助を期待す
ると語った。

II. パネルディスカッション：

1. 公共図書館から JMLA への提言

— 一般市民の視点から —

公共図書館での医学情報提供の要望が高まる
一方、専門書の選書および専門職員の配備には
一公共図書館では限界がある。公共図書館と
JMLA（日本医学図書館協会）の連携を図り、
医学資料の専門知識を有する JMLA 会員館の
協力を仰ぎたいと語った。

2. 国立ライフサイエンス情報センター(仮称) 設立構想

国立ライフサイエンス情報センター（仮称）
構想は1960年代からはじまり、今なお実現には
至っていない。実現に向け、関係団体との連携、
働きかけを推進したいと語った。

センターの構想としては、国民一般の健康増

進に寄与する事業として、「ライフサイエンスにかかわる情報の網羅的な収集および発信」を主な事業内容としており、現段階での進捗は、ライフサイエンスにかかわる各団体との協議に留まっている。

政府関係部門への働きかけについて、会場より「内閣官房の知的財産戦略推進事務局へ声を掛けては」との提案があったが、協会では現在文部科学省へ働きかけているとのことであった。

3. 学術雑誌をめぐる諸問題

—重複雑誌交換、分担購入、電子ジャーナル・コンソーシアムの活動—

学術雑誌の高騰および会員各館の収納限界を踏まえ、会員館相互の連携と互助を進める活動を報告。今後の課題である学術雑誌高騰への対策を検討する。

分担購入では、購入希望タイトルが重複するなど、購入費削減の効果は薄いとされた。

4. ヘルスサイエンス情報専門員認定制度

—専門職制度の確立に向けて—

医学図書館協会が認定する「ヘルスサイエンス情報専門員」制度についての解説と取得者数の減少を憂慮し、今後の認定資格についての展

望および希望を語る。

会場より、「サーチャーとの違いは？」という質問があったが、「資格認定の仕方がサーチャーは試験だが、こちらはポイント制」という違いしか述べられなかった。専門員という認定であるのだから、もう少し具体的な例を挙げてほしいと思った。

Ⅲ. 総合討論：

各パネルディスカッション演者による質疑応答

最も身近な話題であるためか、学術雑誌の問題を扱った北川氏への質問が多かった。

重複雑誌交換に対して、現行では1年に1回であるところを、もう少し頻度を上げてほしいとの声に、窓口業務の煩雑さを考えると難しいが検討はしていきたいと述べた。

公共図書館員である仲井氏へは、同氏からの「一般的な医学専門書リストの提供希望」に、「JMLA から国立ライフサイエンス情報センターを介してリストを発表していきたい」とする考えと、会場からは、「地元の医師会の助言を仰いでは」という意見が出された。

(文責：神山貴子／京都桂病院)